

## 海外安全対策情報（平成28年度第1四半期：コロンビア）

### 1 社会・治安情勢

4月2日、ウリベ前大統領の呼びかけにより、サントス政権を批判するデモが全国26都市で実施され、81,900人が参加した。

4月20日、ボゴタ市内で保険会社（EPS）に対する2件の爆弾事件が発生したが、けが人はなかった。

5月9日、ビジェガス国防大臣は、FARCは恐喝、麻薬取引及び対人地雷の埋設行為を続けており、最近、双方向停戦を破る3つの暴力行為を行ったとして非難した。

5月30日、16の県において農民ストライキが開始された。農民達は2013年の大規模ストライキ後の諸々の約束を政府が履行しなかったことを理由としていた。ELNがデモ隊動員の資金を提供しているとして、政府当局は警戒を強めた。

6月23日、キューバにおいてコロンビア政府とFARCとの和平交渉における「紛争の終結」等の合意に関する式典が開催された。共同声明には、（FARC集住地域として）23カ所の「正常化のための農村暫定地区」及び8カ所の「野営地」（Campamento）を設置することが盛り込まれた。

### 2 一般犯罪の傾向

#### （1）犯罪別発生件数

第1四半期（4月～6月）のコロンビア全国における罪種別犯罪発生件数は以下のとおり（出典：コロンビア国防省統計）。

・殺人	2,975件
・強窃盗（対人被害）	24,874件
・強窃盗（邸宅、商業施設被害）	9,336件
・強窃盗（乗物被害）	8,617件
・性犯罪	1,992件

#### （2）邦人被害事案

○ 4月21日、長期在留邦人がボゴタ市内スーパーでスリの被害に遭った。被害者がレジの列に並んだところ、男が被害者の前に割り込み、被害者が割り込みさせまいと男に気をとられている隙に、後に並んでいた女性が被害者の手提げ鞆からタブレットを窃取した。

○ 5月8日、ボゴタ市内の歴史地区において、短期旅行者が写真を撮りながら散歩していたところ、男にカメラをひったくられそうになったことから、抵抗したところ、犯人に刃物で切りつけられ負傷、カメラを強奪された。

○ 5月24日、メデジン市内の邦人宅に強盗が侵入、日本から訪問中

であった邦人家族等を縛り上げ、貴重品を強奪される緊縛強盗の被害に遭った。

- 6月9日、長期滞在邦人がボゴタ市内レストランで、座席横に置いていた鞆を窃取された。被害者が食事中、男性が突然被害者の横で倒れ、被害者が男性が起き上がるのを助けている間に窃取された。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 発生件数（4月～6月）（出典：コロンビア国防省統計）

46件

(2) 発生事案

国内において、以下のテロ・爆弾事案が発生した。

- 4月1日、ノルテ・デ・サントアンデール県サン・カリスト市において、交番への襲撃事件が発生、警察官2人が負傷した。
- 4月6日、カウカ県ポパジャン市とバジェ・デル・カウカ県カリ市を結ぶパン・アメリカン高速道路上にE L Nが仕掛けた30kgの爆弾が発見され、軍により解体された。
- 4月9日、カウカ県エル・タンボ市において国軍兵士がE L Nとみられるゲリラに襲撃され国軍兵士1名が死亡した。
- 4月20日、ボゴタ市内で保険会社（EPS）に対する2件の爆弾事件が発生したが、けが人はなかった。
- 5月6日、カケタ県フロレンシア市付近で、国軍兵士がF A R Cによって狙撃され、兵士1名が死亡した。
- 5月7日、アンティオキア県メデジン市において、市内の交番3カ所で小規模の爆発物が発見され治安機関により解体された。
- 6月11日、メタ県において国軍兵士がF A R Cによって狙撃され、兵士1名が死亡した。
- 6月21日、ノルテ・デ・サントアンデール県サン・カリスト市において、E P Lによるとみられる攻撃により、国軍兵士4人が死亡した。

### 4 誘拐・恐喝事件発生状況

(1) 発生件数（4月～6月）（出典：コロンビア国防省統計）

ア 誘拐 44件

イ 恐喝 766件

(2) 発生事案

21日、E L Nが支配するノルテ・デ・サントアンデール県カタトゥンボ地区に近い場所において、当地エル・ティエンポ紙のスペイン人（コロンビア国籍も所持）記者エルナンデス氏が誘拐され、27日に解放された。

## 5 日本企業の安全に関する諸問題

政府の継続した治安対策により、ボゴタを始めとする都市部ではテロ、殺人及び誘拐の発生は減少し、都市部での治安状況は過去と比べ著しく改善された。

しかし、昨年7月、ボゴタ市内で連続爆弾テロが発生したほか、本年4月にも同様にボゴタ市内で連続爆弾テロが発生するなど、未だ警戒を怠ることはできない。また、昨年5月22日から7月20日までのFARCが一方的停戦を破棄していた期間は、山間部やジャングル地帯を中心に治安機関及び石油・電力施設を狙ったテロが頻発した。これら地域は、国軍・警察の影響力も低く、現在もテロが頻繁に発生しており、人的・物的被害が絶えない。

現在キューバの首都ハバナにおいて、政府側とFARC側の代表団が交渉を継続中である和平交渉が合意に達したとしても、社会復帰が出来なかったゲリラが一般犯罪に手を染めるなどの不安要素が存在することから、治安の動向は予断を許さない状況になるものと思われる。

従って、特に地方への訪問については、その可否を決定する上でも、外務省、大使館、現地治安当局より最新の治安情報を入手するよう努めていただきたい。